

専門科目

(運動機能科学コース開講)

| | |
|---|--|
| <p>【科目名】 運動機能科学総論</p> | <p>【担当教員】 氏名 高橋 洋 [研究室] サテライトキャンパス</p> |
| <p>【授業区分】 運動機能科学コース開講科目</p> | <p>[内線番号]</p> |
| <p>【授業コード】 dbMhs 118</p> | <p>[メールアドレス] hirosHit@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 来学時に対応</p> |
| <p>【配当年】 1年次</p> | <p>【単位数】 1単位</p> |
| <p>【開講時期】 前期</p> | <p>【コマ数】 8コマ</p> |
| <p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>運動機能科学コースの学生は必修科目</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>欠席する場合は担当教員への事前連絡により振替講義が可能な場合もある。事前連絡なく欠席の場合は担当教員の指示に従うこと。</p> | |
| <p>【講義概要】</p> <p>理学療法及び関連分野の運動器等に対するアプローチを紹介する。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連分野からの情報を紹介し、理学療法のヒントとする。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究分野との関連性を考察できる。 | |
| <p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>課したレポートの達成度等で総合的に判定する。</p> | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <p>プリントを配布する。</p> | |
| <p>【指定図書・参考書】</p> <p>授業テーマ・内容参照</p> | |

| 【授業テーマ・内容】 | | | | |
|------------|------------------------|-----------|--------------------------------------|----------------------|
| 回数 | テーマ | 内容 | 授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等) | 授業外 標準学修 時間(分) |
| 1 | オリエンテーション、 姿勢コントロール | 右の成書の要約説明 | Jane Johnsonn 著 武田功 弓岡光徳監訳「姿勢コントロール」 | 40分 |
| 2 | 姿勢コントロール | 右の成書の要約説明 | 武田功 弓岡光徳監訳「姿勢コントロール」 | 40分 |
| 3 | 同上 | 同上 | 同上 | 40分 |
| 4 | コアセラピー | 右の成書の要約説明 | 平沼憲治監訳「コアセラピーの理論と実際」 | 40分 |
| 5 | 同上 | 同上 | 同上 | 40分 |
| 6 | 同上 | 同上 | 同上 | 40分 |
| 7 | 殿筋からのアプローチ | 右の成書の要約説明 | John Gibbons 著 木場克己監訳「強める！殿筋」 | 40分 |
| 8 | まとめ | まとめ、今後の課題 | 事後：自分の研究計画に反映させる。 | 40分 |

※授業日・講義室は随時、配信します。

| |
|---|
| <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>レポート拝見後、コメントを送ります。</p> |
| <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p> |
| <p>【教員からの一言】</p> <p>理学療法関連分野も色々な方法論を取り入れています。其のいくつかのものを紹介します。</p> |
| <p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p> |

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

| | |
|---|--|
| <p>【科目名】 地域・老年期リハビリテーション論</p> | <p>【担当教員】 氏名 小林 量作 松林 義人 [研究室] E棟2階</p> |
| <p>【授業区分】 運動機能科学コース開講科目</p> | <p>[内線番号] 305</p> |
| <p>【授業コード】 dbmh 119</p> | <p>[メールアドレス] r.kobayashi@nur05.onmicrosoft.com matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 小林：(月)～(水) 17:00～18:00 松林：(火) 12:50～13:20</p> |
| <p>【配当年】 1年次</p> | <p>【単位数】 2単位</p> |
| <p>【開講時期】 後期</p> | <p>【コマ数】 15コマ</p> |
| <p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>特になし</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>欠席は事前連絡する。 予習では最低1つの質問を考えておき、討論授業では最低1回の発言をする。</p> | |
| <p>【講義概要】</p> <p>老年期（高齢者）に伴う様々な医学的問題、地域リハビリテーション（理学療法、作業療法など）の実際について、教員の講義と学生との討論による方法で学習する。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>超高齢社会の現状、高齢者の介護予防、地域包括ケアシステムを中心とした地域リハビリテーション（以下、リハ）の考え方、および最近のロコモティブ症候群、サルコペニア、フレイルなどのトピックスについて理解する。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 超高齢社会の現状と課題について説明できる。 2. 老年症候群、ロコモティブ症候群、サルコペニア、フレイルなど最近のトピックスについて学習する。 3. 地域リハビリテーションの考え方、実際について学習する。 | |
| <p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>レポート60%、小試験20%、授業参加度20%の割合で評価する。</p> | |
| <p>【講義で使用する書籍・文献・資料等】</p> <p>指定なし。 授業テーマに応じて資料を提供する。</p> | |
| <p>【講義の参考となる書籍・文献】</p> <p>牧迫飛雄馬、他、編.『高齢者理学療法』2017. 東京. 医歯薬出版.</p> <p>牧田光代、他、編.『地域理学療法』（第4版）2017. 東京. 医学書院.</p> | |

| 【授業テーマ・内容】 | | | | |
|------------|-----------------------|-----------------------------------|-------------------------------|----------------------|
| 回数 | テーマ | 内容 | 授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等) | 授業外 標準学修 時間(分) |
| 1 | オリエンテーション 超高齢社会の課題 | ・授業の進め方、履修学生の紹介など ・社会的問題、医学的問題 | 講義(小林)、討論 (Web) 講義(松林) | |
| 2 | 高齢者の医学的トピックス1 | ・老年症候群 | 講義(松林) | 予習 30分 |
| 3 | 高齢者の医学的トピックス2 | ・ロコモティブ症候群 | 講義(松林) | 予習 30分 |
| 4 | 高齢者の医学的トピックス3 | ・サルコペニア | 講義(松林) | 予習 30分 |
| 5 | 高齢者の医学的トピックス4 | ・フレイル | 講義(松林) | 予習 30分 |
| 6 | 高齢者の医学的トピックス5 | ・転倒骨折 | 講義(松林) | 予習 30分 |
| 7 | 高齢者の医学的トピックス6 | ・閉じこもり、認知症 ・レポート課題について | 講義(松林) | 予習 30分 |
| 8 | 地域リハビリテーションとは | ・地域リハの定義・範囲、CBR、地域包括 ケアシステム | 講義(小林)、討論 (Web) | 予習 30分 |
| 9 | 地域リハと予防 学生発表 | ・予防とは、地域「通いの場」など | 講義(小林)、討論 (Web) | 予習 30分 |
| 10 | 訪問理学療法、学生発表 | ・訪問理学療法の実際、事例検討など | 講義(小林)、討論 (Web) | 予習 30分 |
| 11 | 通所理学療法、学生発表 | ・通所理学療法の実際、事例検討など | 講義(小林)、討論 (Web) | 予習 30分 |
| 12 | 地域リハのリスク管理、学生発表 | ・リスク管理とは、在宅でのリスク管理 | 講義(小林)、討論 (Web) | 予習 30分 |
| 13 | 地域リハと住宅改修、学生発表 | ・住宅改修の実際 | 講義(小林)、討論 (Web) | 予習 30分 |
| 14 | 地域リハと福祉用具、学生発表 | ・福祉用具の定義・範囲、実際 | 講義(小林)、討論 (Web) | 予習 30分 |
| 15 | 授業全体のまとめ | ・これまでの授業での質問・討論 | 講義(小林)、討論 (Web) | 予習 30分 |

※授業日・講義室は随時、配信します。

| |
|---|
| <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>学生の担当回の課題は、自身の研究テーマに関する内容を紹介する。発表前に希望があれば随時指導を行う。</p> <p>小林担当の講義課題について：授業回数の後半に提示、各自のレポートは全学生を統合して教員のコメントも加えて返却する。</p> <p>松林担当の講義課題について：高齢者の医学的トピックス1～6の中でテーマを一つ選択し、レポート課題を提出すること。</p> <p>レポートの締め切りについては講義内で指定する。</p> |
| <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培い、物事を探求し問題解決できる能力を身に付けることで、社会に貢献する。</p> |
| <p>【教員からの一言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院などでは、学生自身の研究テーマの視点から積極的に討論に参加する。 ・教員への質問、意見は教員のアドレスに送信する。どんな些細なことでもよい。 |
| <p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p> |

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

| | |
|---|---|
| <p>【科目名】 運動機能障害特論（運動器・スポーツ障害）</p> | <p>【担当教員】 氏名 栗生田 博子 [研究室] A棟1階</p> |
| <p>【授業区分】 運動機能科学コース開講科目</p> | <p>[内線番号] 114</p> |
| <p>【授業コード】 mh 120</p> | <p>[メールアドレス] aoda@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 月曜日 12:45～13:15</p> |
| <p>【配当年】 1年次</p> | <p>【単位数】 1単位</p> |
| <p>【開講時期】 後期</p> | <p>【コマ数】 8コマ</p> |
| <p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>運動器疾患やスポーツ傷害のリハビリテーション、もしくは障がいの有無を問わない体育・スポーツの実践に興味のある院生の受講を望みます。</p> <p>運動機能科学コースの院生は選択科目となります。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>事前に課題を提示することがあるので、必ず実施してください。</p> | |
| <p>【講義概要】</p> <p>運動器疾患，特にスポーツ疾患の理学療法評価法，臨床推論に関する内容とあわせて，様々な対象者のスポーツに関し，スポーツ実施環境や身体機能評価方法などについて概説する．症例検討や誰もが参加・活動できるインクルーシブスポーツと理学療法との関連について論議，考察する．</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床現場に赴き，スポーツに関連したリハビリテーションや身体活動を実践するための基本的な知識を習得する． <p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主に運動器疾患の特性を理解し，臨床推論を基盤として対応する理学療法の役割について考えることができる． 障がいの有無や性別，年齢を問わず誰もが参加できるインクルーシブスポーツを普及・発展させるための方策について，検討することができる． | |
| <p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>レポート評価にて成績判定を行う。</p> | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <p>特に指定しない</p> | |
| <p>【指定図書・参考書】</p> <p>講義の中で随時紹介する</p> | |

| 【授業テーマ・内容】 | | | | |
|------------|--------------------------------|--|-------------------------------|----------------------|
| 回数 | テーマ | 内容 | 授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等) | 授業外 標準学修 時間(分) |
| 1 | 運動器疾患のリハビリテーションに対する基本的な考え方 (1) | 運動器疾患のリハビリテーションに必要な評価の基本について概説する | 準備) 症例検討の準備 | 60 |
| 2 | 運動器疾患のリハビリテーションに対する基本的な考え方 (2) | 運動器疾患のリハビリテーションに必要な評価の基本について概説する | 準備) 症例検討の準備 | 60 |
| 3 | 運動器疾患のリハビリテーションに対する基本的な考え方 (3) | 運動器疾患, 特にスポーツ傷害のリハビリテーションに関する事例を概説する | 準備) 症例検討の準備 | 60 |
| 4 | 症例検討 (1) | 臨床で経験した症例について, ディスカッションを通じ再検討を行う | 事後) 症例検討の内容をまとめる | 60 |
| 5 | 症例検討 (2) | 臨床で経験した症例について, ディスカッションを通じ再検討を行う | 事後) 症例検討の内容をまとめる | 60 |
| 6 | 障がい者のスポーツと理学療法 | 障がい者のスポーツとそれに関わる理学療法に関する事例を概説する | 事後) レポート作成 | 60 |
| 7 | インクルーシブスポーツと理学療法 (1) | 理学療法をベースとして, 体育・スポーツ現場に理学療法士が関わる可能性について概説する | 事後) レポート作成 | 60 |
| 8 | インクルーシブスポーツと理学療法 (2) | 理学療法をベースとして, 体育・スポーツ現場に理学療法士が関わる方法や内容を具体的に検討する | 事後) レポート作成 | 60 |

※授業日・講義室は随時、配信します。

| |
|--|
| <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>症例検討やレポートの内容について随時ディスカッションを行います。</p> |
| <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域に関わる多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p> |
| <p>【教員からの一言】</p> <p>健常者・障がい者を問わず身体活動を展開するための手段として、理学療法の役割や可能性を検討し、広げたいと考えています。</p> |
| <p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p> |

| | |
|--|---|
| <p>【科目名】 生活機能障害作業療法学</p> | <p>【担当教員】 氏名 澁井 実 [研究室] A棟2階</p> |
| <p>【授業区分】 運動機能科学コース開講科目</p> | <p>[内線番号] 122</p> |
| <p>【授業コード】 bmh121</p> | <p>[メールアドレス] shibui@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 火・水・木 12:40～13:30</p> |
| <p>【配当年】 1年次</p> | <p>【単位数】 1単位</p> |
| <p>【開講時期】 後期</p> | <p>【コマ数】 8コマ</p> |
| <p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>特になし。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>相互交流型の授業とします。予習を含め積極的に参加してください。</p> | |
| <p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活機能とは何か、生活機能障害とは何かについて理解し、生活機能障害を持つ者への支援の仕方について学ぶ。様々な文献を読んでいく。 <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の生活機能について理解する。 ・ICFについて理解する。 ・生活機能障害を持つ者への支援の仕方について理解する。 <p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の生活機能について説明できる。 ・ICFについて説明できる ・生活機能障害を持つ者への支援の仕方について説明できる。 | |
| <p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。講義参加態度、試験あるいはレポートで評価する。</p> | |
| <p>【講義で使用する書籍・文献・資料等】</p> <p>適宜紹介する。</p> | |
| <p>【講義の参考となる書籍・文献】</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p> | |

| 【授業テーマ・内容】 | | | | |
|------------|--------------|----------------------------|-------------------------------|----------------------|
| 回数 | テーマ | 内容 | 授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等) | 授業外 標準学修 時間(分) |
| 1-2 | 生活機能の理解 | 生活機能とは | 復習 | 90分 |
| 3-4 | ICFの理解 | ICFと背景と特徴 | 復習 | 90分 |
| 5-6 | 障害特性の理解 | 精神障害者、認知症者、高次脳機能障害者の生活の特徴 | 復習 | 90分 |
| 7-8 | 各障害に対する支援の理解 | 精神障害者、認知症者、高次脳機能障害者の生活への支援 | 復習 | 90分 |

※授業日・講義室は随時、配信します。

| |
|--|
| <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>講義の中で個別に対応する。</p> |
| <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p> |
| <p>【教員からの一言】</p> <p>その年の履修者数によって、日程や授業の進め方を決めます。</p> |
| <p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p> |

| | |
|---|--|
| 【科目名】 生活環境科学（住環境・ADL） | 【担当教員】 氏名 増田 雄亮 [研究室] E棟2階 |
| 【授業区分】 運動機能科学コース開講科目 | [内線番号] 314 |
| 【授業コード】 dmh 122 | [メールアドレス] masuda@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 火～木 9:30～12:40 |
| 【配当年】 1年次 | 【単位数】 1単位 |
| 【開講時期】 後期 | 【コマ数】 8コマ |
| 【注意事項】 《受講者に関わる情報》 ひとの生活を豊かにしていくために、自身の研究テーマがひとの生活にどのような形で関連しているのかについて、興味・関心を持って受講することが望ましい。 《受講のルールに関わる情報》 学生自身の研究テーマがひとの生活にどのような形で関連しているのかについて、文献抄読などを通して整理しておくことが望ましい。 | |
| 【講義概要】 生活環境科学（住環境・ADL）に関連した教員による講義と学生による国内外の研究論文抄読を通して、ひとの生活を豊かにするための臨床実践と研究証拠（エビデンス）の創出について学修する。和文・英文の論文を最低でも1本ずつ抄読する。 【一般教育目標(GIO)】 さまざまな運動機能障害や認知機能障害を有するひとにとって、暮らしやすい生活環境について考えるために、リハビリテーション領域における実践と国内外の研究証拠（エビデンス）について理解する。 【行動目標(SBO)】 1. ひとの生活環境に関連した国内外の研究論文を読み、その内容と研究法について具体的に説明できる。 2. 運動機能障害や認知機能障害を有するひとへの住環境整備やADL支援の実際について紹介できる。 3. 生活環境の評価（特に、住環境評価とADL評価）の視点と構造について理解できる。 4. 自身の研究テーマとひとの生活との関連について具体的に述べるができる。 | |
| 【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート（60%）、討論内容（40%）の割合で評価する。 | |
| 【講義で使用する書籍・文献・資料等】 必要に応じて資料等を配布します。 | |
| 【講義の参考となる書籍・文献】 特になし | |

| 【授業テーマ・内容】 | | | | |
|------------|---------------------------------------|--|-------------------------------|----------------------|
| 回数 | テーマ | 内容 | 授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等) | 授業外 標準学修 時間(分) |
| 1 | リハビリテーションにおける生活環境 科学（住環境・ADL）の位置づけ | ひとの生活と住環境・ADL（IADL を含 む）との関連について | 自身の研究テーマとひとの生 活との関連を明らかにする | 90分 |
| 2 | 住環境評価と ADL 評価 | ADL（IADL を含む）評価とそれに関連 した住環境評価の視点について | 国内外の研究論文を収集し、 文献抄読を行うこと | 90分 |
| 3 | 運動機能障害と住環境整備 | 運動機能障害を有するひとに対する住環 境整備と ADL 支援の方法論 | 国内外の研究論文を収集し、 文献抄読を行うこと | 90分 |
| 4 | 認知機能障害と住環境整備 | 認知機能障害を有するひとに対する住環 境整備と ADL 支援の方法論 | 国内外の研究論文を収集し、 文献抄読を行うこと | 90分 |
| 5 | 転倒転落と住環境の関連 | 在宅における転倒転落場面と住環境整備 について | 国内外の研究論文を収集し、 文献抄読を行うこと | 90分 |
| 6 | 科学技術を用いた住環境と ADL | ICT や VR などの科学技術を活用した住 環境整備と ADL 支援の実践例について | 国内外の研究論文を収集し、 文献抄読を行うこと | 90分 |
| 7 | 公共交通機関・公共建築におけるバリ アフリー | 障害のあるひとが外出しやすいような物 理的環境整備のあり方について | 国内外の研究論文を収集し、 文献抄読を行うこと | 90分 |
| 8 | 「障害の社会モデル」と「心のバリア フリー」 | 障害のあるひとに対する合理的配慮およ び社会的態度について | 国内外の研究論文を収集し、 文献抄読を行うこと | 90分 |

※授業日・講義室は随時、配信します。

| |
|--|
| <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>研究論文の抄読について、発表前・発表時・発表後に随時指導を行う。</p> |
| <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p> |
| <p>【教員からの一言】</p> <p>学生自身の研究テーマと関連付けながら、積極的に討論に参加してください。実践と研究の双方から検討していきたいと思います。</p> |
| <p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p> |

| | |
|---|---|
| 【科目名】 物理療法学特論 | 【担当教員】 浅海 岩生 [研究室] |
| 【授業区分】 運動機能科学コース開講科目 | [メールアドレス] igasami@nur05.onmicrosoft.com |
| 【授業コード】 m 123 | [オフィスアワー] 月曜～金曜(9-17時) メールで対応 |
| 【配当年】 1年次 | 【単位数】 1単位 |
| 【開講時期】 後期 | 【コマ数】 8コマ |
| 【注意事項】 《受講者に関わる情報》 ・この授業はWEB授業対応授業です（Office365の設定が必要です）。 《受講のルールに関わる情報》 ・課題は必ず期限内に出すようにしてください。 ・課題はMicrosoft Teams を使用して提出してください。 | |
| 【講義概要】 この講座では、物理療法の各種の治療手技を概説すると共に最近の物理療法の進歩についても解説していく。授業は講師による講義の後、受講学生に与えられた課題の発表・討論(インターネットで受講ではレポート提出)という形で進めていく。 【一般教育目標(GIO)】 ・物理療法の各種の治療技法を知る。 ・物理療法の最近の進歩について知る。 【行動目標(SB0)】 ・物理療法の各種の治療手技について説明できる。 ・物理療法の最近の進歩について説明できる。 | |
| 【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・成績評価は、レポート50%、発表30%、授業に取り組む姿勢20%(宿題、ノート整理状況など)とする。 | |
| 【テキスト・教科書】 ・必要に応じ資料を配布する。 | |
| 【指定図書・参考書】 ・Michelle H. Cameron 編、渡部一郎 監訳、普及版 EBM 物理療法 原著第2版、医歯薬出版株式会社、2006年、¥8,600+税 | |

| 【授業テーマ・内容】 | | | | |
|------------|--|----------------------|--|----------------------|
| 回数 | テーマ | 内容 | 授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等) | 授業外 標準学修 時間(分) |
| 1 | ・オリエンテーション (Tema の使用方法を含む) ・温熱療法・寒冷療法の最近の進歩 | ・授業の進め方を説明する。 ・講義 | ・ Teams の利用法を確認しておく。 ・課題を作成と提出 | 60分 30分 |
| 2 | ・高周波療法・磁気刺激療法の最近の進歩 | ・講義 | ・高周波療法とは何か調べておく。 ・課題作成と提出 | 60分 30分 |
| 3 | ・光線療法の最近の進歩 | ・講義 | ・光線療法とは何か調べておく。 ・課題作成と提出 | 60分 30分 |
| 4 | ・超音波療法の最近の進歩 | ・講義 | ・超音波療法とは何か調べておく。 ・課題作成と提出 | 60分 30分 |
| 5 | ・通電療法・バイオフィードバック療法の最近の進歩 | ・講義 | ・通電療法・バイオフィードバック療法とは何か調べておく。 ・課題作成と提出 | 60分 30分 |
| 6 | ・力学的エネルギーを用いた物理療法・CPM 療法の最近の進歩 | ・講義 | ・CPM とは何か調べておく。 ・課題作成と提出 | 60分 30分 |
| 7-8 | ・学生課題発表 課題を PowerPoint で作成し提出することで代替する。 | ・発表 | ・発表は自分が興味のある療法についてまとめる。 ・ノート整理 | 60分 30分 |

※授業日・講義室は随時、配信します。

| |
|--|
| <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ受講者全員または個人にコメントする。 ・課題レポートの解答例を授業内で説明します。 |
| <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う |
| <p>【教員からの一言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず事前学修を実施してください。 |
| <p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p> |

| | |
|--|---|
| 【科目名】 精神・認知機能障害作業療法学 | 【担当教員】 氏名 澁井 実 [研究室] A棟2階 |
| 【授業区分】 運動機能科学コース開講科目 | [内線番号] 122 |
| 【授業コード】 bmh 124 | [メールアドレス] shibui@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 火・水・木 12:40～13:30 |
| 【配当年】 1年次 | 【単位数】 1単位 |
| 【開講時期】 後期 | 【コマ数】 8コマ |
| 【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特になし。 《受講のルールに関わる情報》 講義形式でなく、参加型授業です。予習を行い、自ら学習したことを発表してもらいます。 | |
| 【講義概要】 <ul style="list-style-type: none"> ・認知機能や脳機能に関する最近の文献を読む。(可能であれば英語文献) 【一般教育目標(GIO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・文献の検索の仕方、入手の仕方を修得する。 ・文献を読むことを修得する。 ・文献の内容を、認知機能や脳機能に照らし合わせて説明することを修得する。 【行動目標(SBO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な手法を利用して、必要な(英語)文献を検索・入手できる。 ・(英語)文献を読んで理解できる。 ・文献の内容を、認知機能や脳機能に照らし合わせて説明できる。 | |
| 【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。講義参加態度、試験あるいはレポートで評価する。 | |
| 【テキスト・教科書】 | |
| 【指定図書・参考書】 脳はなにかと言い訳する-人は幸せになるようにできていた!?-、池谷裕二、新潮文庫、2010 ぜんぶわかる脳の辞典、坂井建雄・久光正 監修、成美堂出版、2016 他 | |

| 【授業テーマ・内容】 | | | | |
|------------|---------|-----------------------------------|-------------------------------|----------------------|
| 回数 | テーマ | 内容 | 授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等) | 授業外 標準学修 時間(分) |
| 1-2 | 文献検索 | メディカルオンライン、医中誌、Google Scholar その他 | 復習 | 90分 |
| 3-4 | 文献を読む | 文献を読み理解する | 予習 | 90分 |
| 5-6 | 文献内容の発表 | 文献内容を発表する | 予習 準備 | 90分 |
| 7-8 | 脳機能との関連 | 脳機能との関連を討議する | 予習 復習 | 90分 |

※授業日・講義室は随時、配信します。

| |
|--|
| <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>講義の中で個別に対応する。</p> |
| <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p> |
| <p>【教員からの一言】</p> <p>その年の履修者数によって、日程や授業の進め方を決めます。</p> |
| <p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p> |

| | |
|---|--|
| 【科目名】 作業活動分析学 | 【担当教員】 氏名 長崎重信（非） [研究室] 非常勤講師室 |
| 【授業区分】 運動機能科学コース開講科目 | [内線番号] |
| 【授業コード】 m 125 | [メールアドレス] shignaga@bgu.ac.jp [オフィスアワー] 来学時に対応 |
| 【配当年】 1年次 | 【単位数】 1単位 |
| 【開講時期】 後期 | 【コマ数】 8コマ |
| 【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特になし 《受講のルールに関わる情報》 特になし | |
| 【講義概要】 作業活動を通して作業を分析することができるようになる。 【一般教育目標(GIO)】 作業療法分野における作業活動分析を実際に体験し、それを通して作業活動を分析できる。 【行動目標(SBO)】 1. 作業活動を体験し、作業の定義を理解することができる。 2. 作業活動の工程を分析することができる。 3. 作業活動を身体的、心理的、社会的側面から分析することができる。 4. 作業分析を通して、対象者への作業療法的アプローチを考えられるようになる。 | |
| 【評価に関わる情報】 基礎知識を提供するので、作業体験を通して、作業分析とは何かを理解できるようになる。結果として、作業への理解、作業分析、作業の適応をいかに理解したかをレポートに表現できる。作業についての理解度を評価する。(100%) | |
| 【講義で使用する書籍・文献・資料等】 資料を配付します。参考書として以下のものを提示します。 | |
| 【講義の参考となる書籍・文献】 長崎重信監修、浅沼辰志編集： 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業学 改訂第2版 メジカルビュー社 2015 | |

| 【授業テーマ・内容】 | | | | |
|------------|------------------------|--|-------------------------------|-----------------------------|
| 回数 | テーマ | 内容 | 授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等) | 授業外 標準学修時間(分) |
| 1 | 作業とは何か？ | 1.作業療法における作業 2.作業学とは 3.作業を用いた療法に関連する基本 事項 | | |
| 2 | 個別作業の体験 | 個別作業を通して、作業が人に与える 影響を考える。作業工程表の作成。 | | |
| 3 | 個別作業の分析 | 作業分析表を用いて、作業活動を分析 する。 | | |
| 4 | 分析結果の解釈 課題：生活時間表の記入 | 分析結果をまとめる | 1～4 終了後、レポートの作成 生活時間表の記入 | レポート作成、生活時 間表の作成 (120 分) |
| 5 | 生活時間表の解釈、集団作業 の体験 | 集団作業を通して、作業が人に与える 影響を考える。作業工程表の作成。 | | |
| 6 | 集団作業の分析 | 作業分析表を用いて、作業活動を分析 する。 | | |
| 7 | 分析結果の解釈 | 分析結果をまとめる | | |
| 8 | 健康な人への作業活動の提供 | 作業療法アプローチを考える | 5～8 終了後、レポートの作成 | レポート作成 (120 分) |

※授業日・講義室は随時、配信します。

| |
|--|
| <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>講義のフィードバックは適宜、講義中、講義後に行う。</p> |
| <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</p> |
| <p>【教員からの一言】</p> <p>実際の作業活動を通して、作業の分析方法を提示します。体験を通して理解を進めてもらえたらと思います。</p> |
| <p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p> |

| | |
|--|---|
| 【科目名】 中枢神経疾患治療技法 | 【担当教員】 氏名 高橋明美 [研究室] A棟1階 |
| 【授業区分】 運動機能科学コース開講科目 | [内線番号] 112 |
| 【授業コード】 bm 126 | [メールアドレス] a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 月～木：9：00～18：00 金：13：00～18：00 |
| 【配当年】 1年次 | 【単位数】 1単位 |
| 【開講時期】 後期 | 【コマ数】 8コマ |
| 【注意事項】 特記なし 《受講者に関わる情報》 授業は講義形式で行う。また、指定した講義に関連した内容についてはレポートにまとめ提出する。 《受講のルールに関わる情報》 特記なし | |
| 【講義概要】 中枢神経疾患の中で、脳卒中は最も多い疾患である。脳卒中による障害に対するリハビリテーションは、運動器疾患と並んで関わりが多く、また近年脳卒中者に対する技法は、ロボット技術を使用したものまで多岐にわたる。本講義では、脳卒中片麻痺者の障害を理解し、その障害に対してどのような治療技法が考えられ、実践されているかを教授する。 【一般教育目標(GIO)】 脳卒中片麻痺患者の本質的な障害と治療法を理解する。 【行動目標(SBO)】 ・姿勢制御システムについて説明できる ・姿勢制御の障害について説明できる ・脳卒中片麻痺者に対する治療法を説明できる ・クリニカルリーズニングに基づく治療法の原理と手技について説明できる | |
| 【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート100%で評価する。 | |
| 【テキスト・教科書】 プリントを配布する | |
| 【指定図書・参考書】 その都度紹介をする | |

| 【授業テーマ・内容】 | | | | |
|------------|--------------------------|---|---|------------------|
| 回数 | テーマ | 内容 | 授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等) | 授業外標準 学修時間(分) |
| 1 | 神経系の基礎知識 | 脳の構造や機能、脳内ネットワークについて | 脳の解剖学について関連書籍にて予習しておくこと | 30分 |
| 2 | 随意運動に関わる神経機構と制御機構の障害について | 脳卒中者の障害の本質である姿勢制御システムとその障害について | 姿勢制御システムについて関連書籍を参考にまとめておくこと(復習) | 30分 |
| 3 | 脳卒中に対する臨床的リハビリテーション | 臨床的リハビリテーションについて | 臨床的リハビリテーションについて予習しておくこと | 30分 |
| 4 | 障害別臨床的リハビリテーション | 皮質脊髄路障害の臨床的リハビリテーション | 皮質脊髄路障害について予習しておくこと | 30分 |
| 5 | 脳卒中者に対する治療技法① | 従来からの技法について | 脳卒中片麻痺者に対する治療として、従来から用いられている技法について調べておくこと(予習) | 30分 |
| 6 | 脳卒中に対する治療技法② | ロボットを使用した技法 | ロボット技術がどのように活用されているか講義内容をまとめておくこと(復習) | 30分 |
| 7 | 神経症候ケーススタディ | 前頭葉・頭頂葉・後頭葉に起因する症例を中心にケーススタディ | 講義内容について復習 | |
| 8 | 総括 | 講義全体のまとめと、脳卒中リハビリテーションの今後について —近年の知見も踏まえて— | 課題に対して、レポートにまとめる | |

※授業日・講義室は随時、配信します。

| |
|--|
| <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>レポートにコメントを加えて返却します</p> |
| <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p> |
| <p>【教員からの一言】</p> <p>講義テーマや内容は前後する可能性があります</p> |
| <p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p> |

| | |
|---|---|
| 【科目名】 動作測定技法 I | 【担当教員】 浅海 岩生 [研究室] |
| 【授業区分】 運動機能科学コース開講科目 | [メールアドレス] igasami@nur05.onmicrosoft.com |
| 【授業コード】 dm 127 | [オフィスアワー] 月曜～金曜(9-17時) メールで対応 |
| 【配当年】 1年次 | 【単位数】 1単位 |
| 【開講時期】 後期 | 【コマ数】 8コマ |
| 【注意事項】 《受講者に関わる情報》 ・この授業はWEB授業対応授業です (Office365 の設定が必要です)。 《受講のルールに関わる情報》 ・課題は必ず期限内に出すようにしてください。(課題提出はMicrosoft Teams を使用してください。) | |
| 【講義概要】 ・この講座では、マイクロコンピュータ MICRO:BIT を使用し反応時間・圧力(ピンチ力)・加速度などを測定する方法を理解することにより、人間の動作を時間的・力学的に分析する手法を学びます。 【一般教育目標(GIO)】 ・マイクロコンピュータの基本的使用方法について理解する。 ・動作の反応時間・圧変化・加速度・角度の測定法について理解する。。 【行動目標(SBO)】 ・マイクロコンピュータを使用し反応時間・圧力・加速度・角度を測定できる。。 ・この方法を運動学的分析に応用できる。 | |
| 【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・成績評価は、レポート 80%, 授業に取り組む姿勢 20%(宿題・ノートの整理状況など)とする。 | |
| 【テキスト・教科書】 ・必要に応じ資料を配布する。 | |
| 【指定図書・参考書】 ・MICRO:BIT ホームページ https://microbit.org/ja/ | |

| 【授業テーマ・内容】 | | | | |
|------------|--|---|--|----------------------|
| 回数 | テーマ | 内容 | 授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等) | 授業外 標準学修 時間(分) |
| 1 | ・オリエンテーション (Office365 の使用方法を含む) ・マイクロコンピュータでできる運動学的解析 | ・授業の進め方を説明する。 ・講義・演習 | ・ Teams にログインし講義の内容を確認する。 ・ 課題作成と提出 | 30 分 60 分 |
| 2 | ・マイクロコンピュータの基本構造とプログラミングの基礎 | ・講義・演習 ・IDE のインストールと操作の基本 ・プログラムの基本文法 | ・ MICRO:BIT とは何か調べておく。 ・課題の作成と提出 | 30 分 60 分 |
| 3 | ・スイッチの ON,OFF を検知する。 | ・講義・演習 ・スイッチを使用したプログラムを作成する。 | ・スイッチの種類について調べておく。 ・課題の作成と提出 | 30 分 60 分 |
| 4 | ・反応時間を測定する。 | ・講義・演習 ・スイッチを使用して反応時間を測定する。 | ・時間を測る方法について調べておく。 ・課題の作成と提出 | 30 分 60 分 |
| 5 | ・ピンチ力を測定する。 | ・講義・演習 ・感圧センサーを使用した計測法 ・ブザーによるバイオフィード | ・A/D 変換とは何か調べておく。 ・課題の作成と提出 | 30 分 60 分 |
| 6 | ・測定値をグラフィック表示する。 | ・講義・演習 ・Processing のインストール ・Processing を用い測定値をグラフィック表示する。 | ・Processing とは何か調べておく。 ・課題の作成と提出 | 30 分 60 分 |
| 7 | ・加速度を測定する。 | ・講義・演習 ・加速度センサーよりのデータを取得する。 | ・加速度により測定できる運動学的因子を調べる。 ・課題の作成と提出 | 30 分 60 分 |
| 8 | ・角度を測定する。 ・まとめ | ・講義・演習 ・加速度の分析プログラムを作成する。 | ・角度を測るプログラムを考えておく。 ・課題の作成と提出 | 30 分 60 分 |

※授業日・講義室は随時、配信します。

| |
|--|
| <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ受講者全員または個人にコメントする。 ・課題レポートの解答例を授業内で説明します。 |
| <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度な知識の活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を総合する力を培う |
| <p>【教員からの一言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず事前学修を実施してください。 ・測定や分析が行われたコマはレポートを提出すること。 |
| <p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p> |

| | |
|--|---|
| 【科目名】 動作測定技法Ⅱ | 【担当教員】 浅海 岩生 [研究室] E棟2階 (内線315) |
| 【授業区分】 運動機能科学コース開講科目 | [メールアドレス] igasami@nur05.onmicrosoft.com |
| 【授業コード】 m 207 | [オフィスアワー] 月曜～金曜(9-17時) メールで対応 |
| 【配当年】 2年次 | 【単位数】 1単位 |
| 【開講時期】 前期 | 【コマ数】 8コマ |
| 【注意事項】 《受講者に関わる情報》 ・この授業はWEB授業対応授業です (Office365 の設定が必要です)。 ・Microsoft Teams を使用し教材の配布を行います。 《受講のルールに関わる情報》 ・課題は必ず期限内に出すようにしてください。(課題提出はMicrosoft Teams を使用してください。) | |
| 【講義概要】 この講座では、動作時の筋肉の活動状態を筋電図学的に分析する手法を学びます。最初に筋電図とは何か、また測定の基本的原理について解説していきます。筋電図の基本的分析手技として数値化されたデータの計算法について学び、実際に反応時間の測定、動作学的筋電図、筋トルクと筋電図の同時測定を行いその分析を実習します。 | |
| 【一般教育目標(GIO)】 ・筋電図の基本的原理を理解する。 ・表面筋電図の測定手技について理解する。 ・筋電図の代表的分析手法について理解する。 | |
| 【行動目標(SBO)】 ・筋電図の基本的原理を説明できる。 ・表面筋電図の測定が行える。 ・筋電図の代表的分析方法を実施できる。 | |
| 【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・成績評価は、レポート50%、発表30%、授業に取り組む姿勢20%(宿題・ノートの整理状況など)とする。 | |
| 【テキスト・教科書】 ・必要に応じ資料を配布する。 | |
| 【指定図書・参考書】 ・必要に応じ資料を配布する。 | |

| 【授業テーマ・内容】 | | | | |
|------------|---|--|---|----------------------|
| 回数 | テーマ | 内容 | 授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等) | 授業外 標準学修 時間(分) |
| 1 | ・オリエンテーション (Teams の使用 方法を含む) ・筋電図の基礎的理解 | (講義・演習) ・授業の進め方を説明する。 | ・筋電図について調べておく。 ・課題作成と提出 | 60分 30分 |
| 2 | ・表面筋電図の測定 | (講義・演習) ・筋電図の基本的測定方法を学習する。 ・演習(インターネット受講ではサンプルデータを用い自宅で実習します。) | ・筋電図の測定方法について 調べておく。 ・課題作成と提出 | 30分 60分 |
| 3・4 | ・筋電図の分析手法 | (講義・演習) ・EMG のデジタル処理を学ぶ。 ・EMG を PC で分析してみる。 | ・筋電図の分析値について調 べておく。 ・課題作成と提出 | 30分 60分 |
| 5・6 | ・筋力と筋電積分値を比較し関連を分 析する。 | (講義・演習) ・上腕二頭筋に負荷する重りを変化させ、 筋電積分値を測定する。 | ・筋張力と筋電図の関係につ いて調べておく。 ・課題作成と提出 | 30分 60分 |
| 7・8 | ・筋電図を用いた反応時間の測定につ いて | (講義・演習) ・筋電図と加速度計を用いた反応時間の 測定法を学ぶ。 | ・反応時間について調べる。 ・課題作成と提出 | 30分 60分 |

※授業日・講義室は随時、配信します。

| |
|--|
| <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ受講者全員または個人にコメントする。 ・課題レポートの解答例を授業内で説明します。 |
| <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度な知識の活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を総合する力を培う。 |
| <p>【教員からの一言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず事前学修を実施してください。 |
| <p>【講義の中で展開するもの】 *新設項目*</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p> |

| | |
|--|---|
| <p>【科目名】 徒手医学特論</p> | <p>【担当教員】 氏名 高橋 洋 [研究室] 東京サテライト</p> |
| <p>【授業区分】 運動機能科学コース開講科目</p> | <p>[内線番号]</p> |
| <p>【授業コード】 m 128</p> | <p>[メールアドレス] hirosht@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 来学時に対応</p> |
| <p>【配当年】 1年次</p> | <p>【単位数】 1単位</p> |
| <p>【開講時期】 後期</p> | <p>【コマ数】 8コマ</p> |
| <p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>実技を行う時は、動きやすい服装を準備すること。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> | |
| <p>【講義概要】</p> <p>・疼痛学、痛みの評価、痛みの治療に関する基本理念、徒手療法、慢性痛に対する理学療法効果、組織の修復、筋硬結に着目して 研究紹介、筋連結に着目して、東洋医学との関連</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>・痛みについての基本的知識、評価法、理学療法について理解する。</p> <p>・筋・筋膜摩擦伸張法について理解する。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>・痛みについての基本的知識、評価法を説明できる。</p> <p>・筋・筋膜摩擦伸張法の手技ができる。</p> | |
| <p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>レポート100%で評価する。</p> | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <p>資料を配布する。</p> | |
| <p>【指定図書・参考書】</p> <p>小林紘二著「筋性疼痛症候の臨床観察（上巻）」</p> | |

| 【授業テーマ・内容】 | | | | |
|------------|--|---------------|-----------------------------------|----------------------|
| 回数 | テーマ | 内容 | 授業外に行うべき学 修活動（準備学修・ 事後の展開等） | 授業外 標準学修 時間(分) |
| 1 | オリエンテーション、痛みについて | 講義 | レジメを復習、予習 | 30分 |
| 2 | 体性一自律神経反射の生理学 | 講義 | レジメを復習、予習 | 30分 |
| 3 | 痛みの心理・環境・行動的側面、プラシーボ効果、痛みの評価、治療における基本理念、 | 講義 | レジメを復習、予習 | 30分 |
| 4 | 徒手療法、物理療法、慢性痛に関する理学療法効果 | 講義 | レジメを復習、予習 | 30分 |
| 5 | 筋筋膜に対する徒手療法 | 筋筋膜に対する徒手療法講義 | レジメを復習、予習 | 30分 |
| 6 | 同上 | 筋筋膜に対する徒手療法実技 | レジメを復習、予習 | 30分 |
| 7 | 筋膜からのアプローチ | 筋膜に対する徒手療法実技 | 実技の復習、予習 | 30分 |
| 8 | まとめ | | レジメの予習 | 30分 |

※授業日・講義室は随時、配信します。

| |
|---|
| <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>レポートの感想をお知らせします。</p> |
| <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p> |
| <p>【教員からの一言】</p> <p>痛みの説明と、筋筋膜摩擦伸張法の実技をします。</p> |
| <p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p> |

| | |
|--|---|
| 【科目名】 生活支援デバイス論（補助具など） | 【担当教員】 氏名 貝淵 正人 [研究室] E棟2階 |
| 【授業区分】 運動機能科学コース専門科目 | [内線番号] 307 |
| 【授業コード】 dm 129 | [メールアドレス] kaifuchi@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 月～金、10:00-16:00 |
| 【配当年】 1年次 | 【単位数】 1単位 |
| 【開講時期】 後期 | 【コマ数】 8コマ |
| 【注意事項】 《受講者に関わる情報》主に環境因子の観点から生活機能に障害をきたした人の気持ちになって生活を考えましょう。 《受講のルールに関わる情報》 | |
| 【講義概要】 リハビリテーション専門職は、障害を個人の要因（心身機能・身体構造、年齢など）として捉えるとともに、生活環境からとらえています。本講義では、生活環境を、住居や公共交通機関など物理的環境や、福祉用具の活用による代償的アプローチも行っています。これらの生活環境の整備・改善また福祉用具の活用による生活の改善方法について修得する。 | |
| 【一般教育目標(GIO)】 障害者、高齢者を取り囲む快活環境のバリアーを理解し、QOL向上のための生活環境整備や福祉用具の活用方法を習得し、障害者の生活支援ができることを目的とする。 | |
| 【行動目標(SBO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境の概念について理解する。 ・住環境整備の意義や内容を説明できる。 ・ADLの中で活用される福祉用具を挙げるができる。 | |
| 【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 住宅改修に関するレポート 40%。福祉用具に関するレポート 40%。期末試験 20%。 | |
| 【講義で使用する書籍・文献・資料等】 必要に応じプリントを配布します。 | |
| 【講義の参考となる書籍・文献】 玉垣努 編:福祉用具・住環境整備の作業療法. 中央法規出版. 2013.3800 円. 加島守 編:自立支援のための福祉用具ハンドブック. 東京都福祉保健財団出版. 2013 年. 2604 円. | |

| 【授業テーマ・内容】 | | | | |
|------------|-------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------|----------------------|
| 回数 | テーマ | 内容 | 授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等) | 授業外 標準学修 時間(分) |
| 1 | ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザイン・QOLの概念 | 生活環境の概念、考え方を理解する | | 90 |
| 2 | 福祉用具の概念 | 福祉用具とはどういった分類になるのか | | 90 |
| 3 | 暮らしと生活環境 | ハートビル法などの理念を理解する。日本家屋における問題点を理解する | | 90 |
| 4 | 介護保険と福祉用具 | 介護保険で利用できる内容と範囲 | | 90 |
| 5 | 生活支援機器 | 生活支援機器導入のポイントを理解する | | 90 |
| 6 | ADLの活動分析と代償方法 | ADLの種々の福祉用具やSHDを正しく使用できる | | 90 |
| 7 | グループで住宅改修案を事例を通して考える | | | 90 |
| 8 | グループで福祉用具導入を事例を通して考える | | | 90 |

※授業日・講義室は随時、配信します。

| |
|--|
| <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>住宅改修案レポート提出。添削し返却します。</p> <p>福祉用具導入案レポート提出。添削し返却します。</p> <p>定期末試験。採点后返却します。</p> |
| <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p> |
| <p>【教員からの一言】</p> <p>住環境整備や福祉用具導入は、リハビリテーション専門職以外に、建築家、工務店、ケアマネージャー、介護福祉士など多くの専門家が関わっています。これらの専門職連携についても感じてもらえたらと思っています。</p> |
| <p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / グループワーク / プレゼンテーション / 講義</p> |

| | |
|--|---|
| 【科目名】 運動発達障害特論 | 【担当教員】 氏名 押木 利英子 [研究室] E棟2階 |
| 【授業区分】 運動機能科学コース開講科目 | [内線番号] 309 |
| 【授業コード】 dbmh 130 | [メールアドレス] oshiki@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 月、水、木 11:00 ~ 16:00 |
| 【配当年】 1年次 | 【単位数】 1単位 |
| 【開講時期】 後期 | 【コマ数】 8コマ |
| 【注意事項】 《受講者に関わる情報》 基本的な正常運動発達について理解している、または興味・関心があることが望ましい。 《受講のルールに関わる情報》 事前に正常運動発達、運動発達障害に関する知識の整理、及び文献を調べておくことが望ましい。 | |
| 【講義概要】 運動発達障害の概念や発生機序を理解するとともに、運動障害児の治療効果検証について理解することを目的にする。また、発達理論や研究法の学習を通して最新の知見を学び、PT、OT、STの視点から小児リハビリテーションあり方について学ぶ。 【一般教育目標(GIO)】 ・運動発達障害の機序について理解する。 ・運動発達と知覚・認知・行動発達の関係性について理解する。 ・運動発達障害に対する最新の知見を習得する。 【行動目標(SBO)】 ・小児リハビリテーションのフィールドにおいて、運動発達の重要性と具体的な提言が出来る。 | |
| 【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・毎回の授業後課題50%、事例検討レポート50%の提出状況、内容を評価し、単位授与とする。 | |
| 【テキスト・教科書】 ・特になし（講義中に随時紹介する） | |
| 【指定図書・参考書】 ・特になし（講義中に随時紹介する） | |

| 【授業テーマ・内容】 | | | | |
|------------|------------------|--|-----------------------------|----------------------|
| 回数 | テーマ | 内容 | 授業外に行うべき学修活動 (事後の課題、展開等) | 授業外 標準学修 時間(分) |
| 1 | 運動発達とは何かその視点 | 運動発達の機序について概説する | 正常運動発達について理解する | 60分 |
| 2 | 運動発達の特徴と原理 | “動くこと”“動けること”(発達の原点)の意味を考える。 | 発達指標について理解する | 60分 |
| 3 | 運動発達障害特論(1) | 運動発達と脳の可塑性について ～その可能性と障害～ | 運動発達の多様性について理解する | 60分 |
| 4 | 運動発達障害特論(2) | 運動発達の阻害因子の見方と小児理学療法の治療体系 | 事例を通して小児理学療法の治療体系について理解する。 | 60分 |
| 5 | 運動発達評価と発達原理 | 発達検査と評価の方法、 運動学習システムと発達理論 | 子どものハビリテーションについて考える。 | 60分 |
| 6 | 私の臨床研究論と紹介 | 運動発達障害研究に対する私論と今までやってきた研究の紹介と解説 | 自分自身の研究の意義を考える | 90分 |
| 7 | 臨床活動における連携協働の重要性 | 小児臨床における連携教育(IPE)と連携協働(IPW)の重要性について ～その歴史と現状～ | あなたのIPE, IPWを振り返る | 90分 |
| 8 | 事例検討 まとめ | 事例検討(モジュールを使用して) レポート作成 | 提示された事例について検討する。 | 120分 |

※授業日・講義室は随時、配信します。

| |
|---|
| <p>【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】</p> <p>受講者の背景に合わせて、レポートの添削を行う。個人の希望や必要に応じて解説する。</p> <p>【課題】 毎回(1~7回)、授業の最後に簡単な課題を出す。(200字程度) この課題レポートを作成し、メールに押木宛に送信する。</p> <p>【試験】 筆記試験は行わない。最終回後に事例検討レポートの提出を課し、これと毎回提出のレポートとの総合点を試験結果とする。</p> |
| <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p> |
| <p>【教員からの一言】</p> <p>ともに学びましょう!</p> |
| <p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p> |